

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス いまここケア			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日			2025年12月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29人	(回答者数)	26人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日			2025年 11月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月19日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	こどもの興味や発達状況を踏まえ、活動内容の検討や振り返りを行っている。また、その時のこどもの姿や課題に合わせてチーム全体で活動プログラムを見直している。職員間で決めるだけでなく、こどもたちや保護者からも活動のニーズを聞き、固定化されないように工夫を行っている。	今後もこどもの姿に応じた活動プログラムを取り入れていき、興味の幅を広げることや成長につなげていく方針は変わらない。また、引き続き固定化しないようにこどもや保護者のニーズを取り入れていきながら活動を考えていく。
2	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	公式LINEを通して、連絡体制や活動概要、自己評価の結果を発信している。また、Instagramでは日々の活動の様子をストーリーや写真・動画投稿を通して発信を行っている。写真だけでなく動画を活用することで、活動概要がよりわかりやすくなるようにしている。	個人情報には、十分留意しながら今後もSNSを通した発信を続けていく。また、保護者には継続してSNSを見てもらえるように周知していく。
3	27,29 こどもは安心感をもって通所していますか。事業所の支援に満足していますか。	毎日の流れを視覚的に提示し、見通しをもって過ごせるようにしている。また、こどもの特性に合わせた関わり方を職員間で共有し、対応が統一されるようにしている。支援内容や活動プログラムについては、送迎時やモニタリング時に保護者の意向を確認し、反映できるようにしている。	今後もこどもの小さな変化や不安のサインを見逃さないよう、日々の様子を職員間でより丁寧に共有していく。また活動や環境について、子ども自身の気持ちや希望を聞き取る機会を増やしていく。さらに充実をするために支援のねらいや意図を、送迎時だけでなく連絡帳にも記入し、これまで以上にわかりやすく伝えられるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	昨年度までは保護者会を実施していたが、今年度は保護者のニーズを踏まえた結果、開催には至らなかった。きょうだいや保護者同士が交流できる機会として夏祭りを開催し招待を行ったものの、交流を促す具体的な仕掛けや働きかけが十分ではなく、活発な交流につなげることができなかった。	保護者会の開催については、保護者からのニーズを把握した上で、必要に応じて実施できるよう計画していく。また、きょうだいや保護者同士が交流できる機会については、年に1回に限らず、土曜日や長期休暇期間にも計画し、より多くの家庭が参加しやすいよう工夫していく。さらに、保護者同士の交流が自然に生まれるよう、職員がきっかけづくりや配慮を行っていく。
2	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	保護者から相談があった際には、個別に事業所で効果のあった支援方法をお伝えしてきたが、全体の保護者に向けた情報提供については十分に行えていなかったことが課題である。	継続して個別の相談対応に加え、日々の支援で効果のあった関わり方を整理し、保護者に情報提供を行っていく。今後は、ペアレンツ・トレーニングの要素を取り入れ、日常の支援で行っているほめ方や声かけ、切り替えの工夫などを、保護者のニーズに合わせて提供する家族支援プログラムの実施をSNSやイベント開催時に検討していく。
3	11 放課後児童クラブや児童館、地域の他のこどもとの交流は行っておらず、全員に必要な活動ではないと考えている。一方、同じ会社内の他事業所との交流は定期的に実施しており、こども同士の関わりや社会性の育成につなげることを大切にしている。	放課後児童クラブや児童館、地域の他のこどもとの交流は行っておらず、全員に必要な活動ではないと考えている。一方、同じ会社内の他事業所との交流については、こども一人ひとりが安心して参加できる環境を整え、社会性やコミュニケーションの育成につなげる取り組みを計画・実施していく。	夏祭りなどのイベントに地域の他の子どもを招待するなど、交流の場を計画していくが、通所している子どもが無理なく参加できる範囲で実施する。また、同じ会社内の他事業所との交流については、こども一人ひとりが安心して参加できる環境を整え、社会性やコミュニケーションの育成につなげる取り組みを計画・実施していく。